

# グローバルな視点と ホスピタリティテイマインドを 実践の中で育みたい

学校法人トラベルジャーナル学園ホスピタリティツーリズム専門学校 理事長 **森谷 博**  
取材文／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【理事長プロフィール】1960年生まれ。日本大学卒業後渡米。89年学校法人森谷学園(現トラベルジャーナル学園)入職。91年トラベルジャーナル入社。2000年トラベルジャーナル代表取締役。07年トラベルジャーナルグループ代表就任。

【学校プロフィール】1973年トラベルジャーナル旅行学院として開校。80年トラベルジャーナル旅行専門学校に。07年学校法人トラベルジャーナル学園ホスピタリティツーリズム専門学校に校名変更。併設校にホスピタリティツーリズム専門学校大阪ほか。

この10月、観光庁が発足しました。これは、わが国が「観光立国」政策を強化する意味で歓迎すべきことです。これまで、英語標示の不徹底など、外国人旅行者が不便を感じることは少なくありませんでした。しかし観光資源は豊富な国です。先進諸国と比べ、観光政策面で立ち遅れていた分、発展が期待されることは間違いないでしょう。

その際、キーワードとなるのは「ホスピタリティ」だと思います。相手の立場で考え、行動できること。日本人が大切にしてきた「おもてなしの心」です。

観光業界の要請によって設立され、トラベルジャーナル旅行専門学校の名で親しまれてきた本校は、07年にホスピタリティツーリズム専門学校に校名を変更しました。学生には、このホスピタリティマインドを身に付けてほしいと願っています。当初、馴染みの薄い言葉であり、その校名に、照れくささを感じないだろうかと心配もしましたが、若者は抵抗なく受け入れてくれました。これは、心強いことです。

本学園の母体であるトラベルジャーナルグループは、旅行業界誌の発行などを通じて、業界から厚い信頼を得ています。私はグループの経営にも携わってい

るためよく分かりますが、業界が学生に求めているのは、まさにこのホスピタリティマインドです。この能力は、知識ではなく、体験を通じて心に刻み込まれていくものです。そのため本学園では、国内外の企業の協力のもと、海外研修やインターシップのほか、多彩な実習を取り入れています。業界と一緒になった人材育成です。

もう一点、業界から求められ、私も強く望むのは、グローバルな視点を持つことです。その近道は、若いうちに積極的に海外にでること。外国から学ぶべきものはまだまだ多く、日本の良さについての認識を深めつつ、国際的な視野を身に付けてほしいと思います。本学園は、シアトルやメルボルンに提携校を持ち、留学制度を整えています。帰国した学生をみると、語学力もさることながら、自立心の芽生えが感じられます。

昨今、大学に観光系の学部・学科が新設されています。業界を活性化させるうえで歓迎すべきことですが、本校の役割は大学と異なります。それは実践力を鍛え、ホスピタリティマインドを育むこと。その点、学生からよく聞く、「早く業界で活躍したい」という声は、頼もしい限りです。